

兵庫県 の 地震 活動

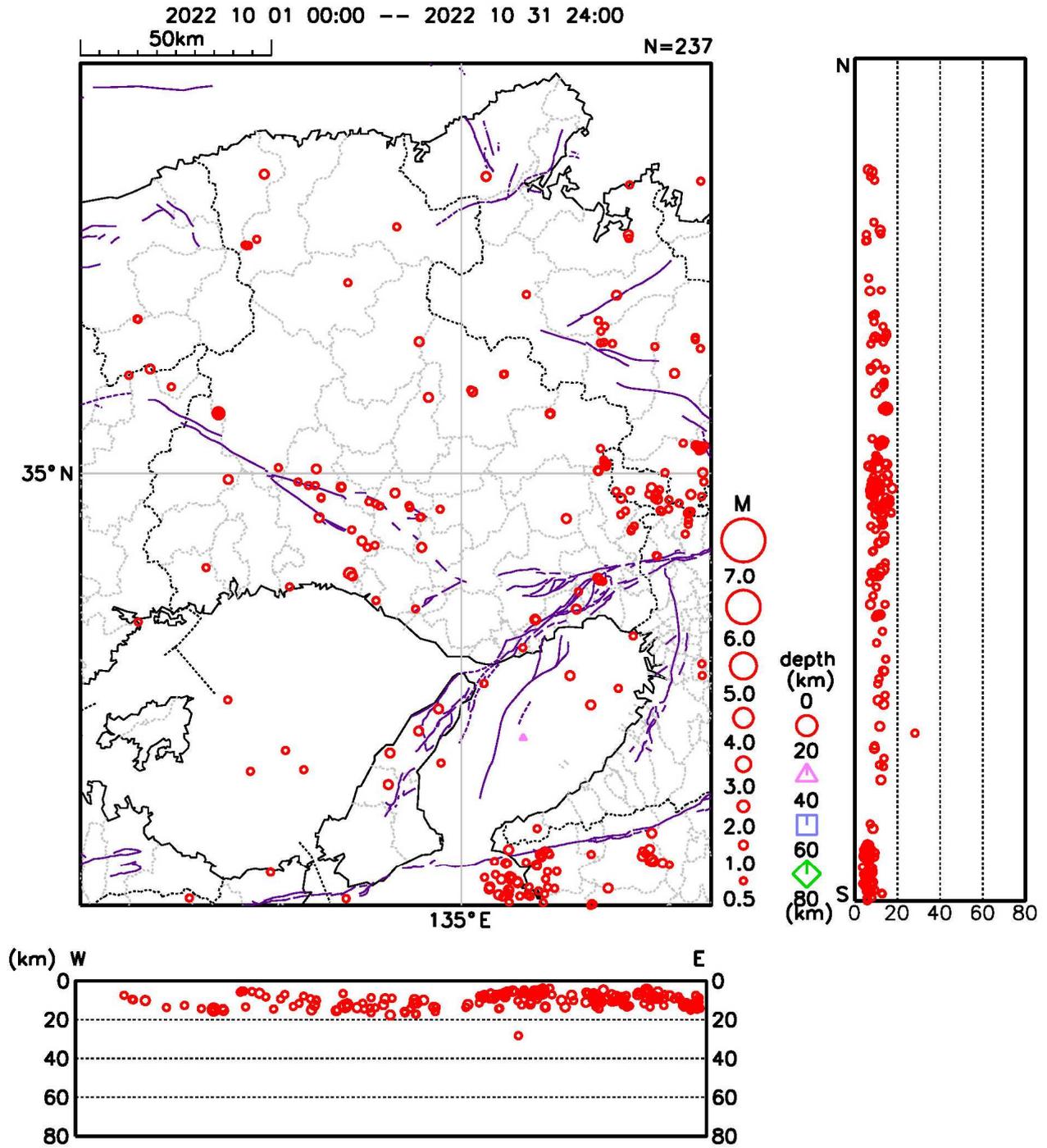
2022 年（令和 4 年）10 月

震央分布図・断面図	1
概況	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震一覧表	2
兵庫県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	2
一口メモ	
防災力向上にむけた取り組みの報告	3

- * 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図
注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概 況

――10月の概況――

今期間、兵庫県内では震度1以上の地震を1回観測しました。

2日00時02分 大隅半島東方沖の地震（深さ29km、M5.9、前掲震央分布図範囲外）により、豊岡市で震度1を観測しました。

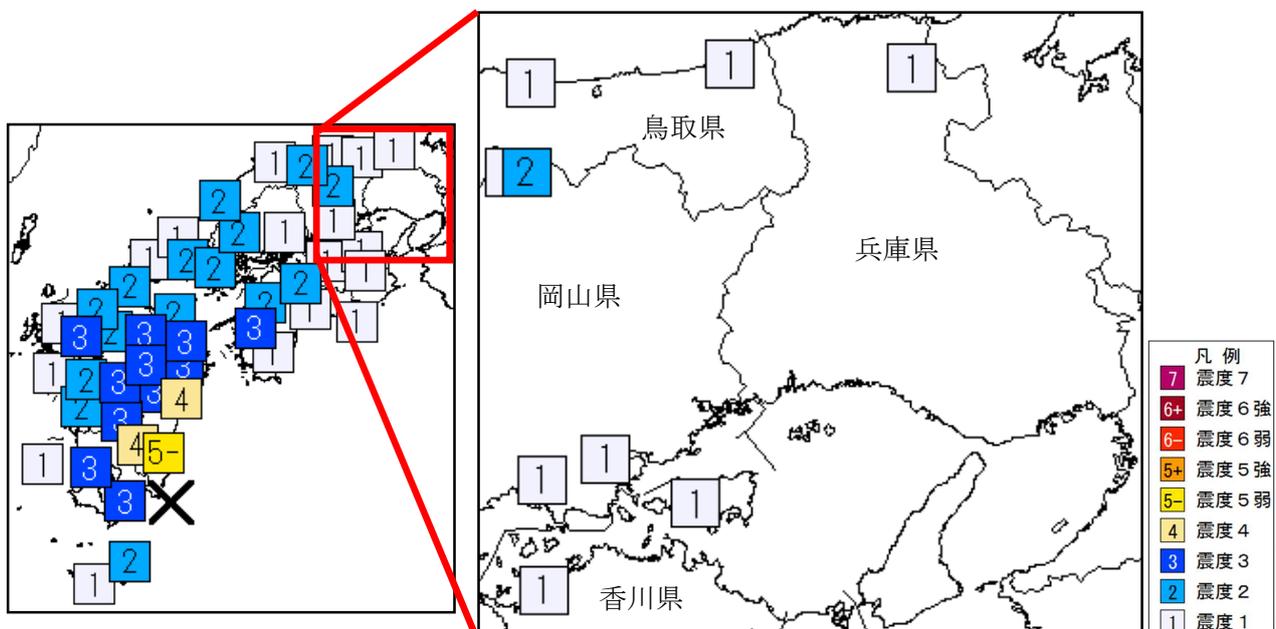
兵庫県で震度1以上を観測した地震一覧表

地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード*	全国最大震度
各地の震度（兵庫県内）						
10月2日 00時02分	大隅半島東方沖	31° 18.7'	131° 31.3'	29km	M5.9	震度5弱
震度1：豊岡市桜町						

震源要素は、後日修正される場合があります。確定値は「地震・火山月報（カタログ編）」に掲載されます。なお、*印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

兵庫県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

10月2日00時02分に発生した、大隅半島東方沖の地震による震度分布図（左図：地域震度※、右図：観測点震度）。×印は震央を表す。



※ 地域震度：国内を188の地域に区分し、その地域内の震度観測点のうち最大の震度を観測した地点の震度を地域震度としています。兵庫県は、北部、南東部、南西部、淡路島の4地域に区分されています。

11月5日「津波防災の日」をむかえ、全国各地で、津波対策について国民の理解と関心を高めるため、訓練やシンポジウム等が行われています。県内では「ぼうさいこくたい2022」や「兵庫県津波一斉避難訓練」が開催されました。今回は、これらの取り組みの様子を報告します。

【 ぼうさいこくたい2022 (10月22・23日) 】

メイン会場のHAT神戸では、講義型セッション・イグナイトステージ(写真1)、体験型ワークショップ(写真2)、ブース展示(写真3)など、様々な形式で防災学習が企画されました。講義型セッションでは、防災に関する様々な講演、体験型ワークショップでは、ゲーム形式で災害のシミュレーションの実演、ブース展示では、最新の防災グッズの紹介など、防災について様々な角度からのアプローチがありました。気象台からは、「津波フラッグ」の紹介(写真4)や液状化現象の実験(写真5)を展示



写真1 イグナイトステージ



写真2 ワークショップ



写真3 気象台展示ブース



写真4 津波フラッグ紹介



写真5 液状化現象実験

し、地震防災の理解を深めていただきました。セッションやワークショップでは、オンラインで参加できるイベントも数多く企画されるなど、防災を考える貴重な機会となりました。

【 兵庫県津波一斉避難訓練 (11月2日) 】

兵庫県では、南海トラフ地震や日本海または沿岸で発生した地震での津波による浸水が想定される県内15市3町に滞在している方に対し、避難を呼びかける緊急速報メール(エリアメール)が配信される「兵庫県津波一斉避難訓練」が実施されました。本訓練ではエリアメール鳴動にあわせてシェイクアウト訓練を行ったり(写真6)、自宅や学校、勤務先の最寄りの避難場所までの経路を確認するなど、地震への備えを再確認しました。神戸聴覚特別支援学校では、報知音の覚知が困難な人にも津波警報等



写真6 シェイクアウト訓練



写真7 津波フラッグ(左)と、学習の様子(右)



を知らせる赤白の格子模様「津波フラッグ」を紹介しました。津波フラッグを見たらすぐに安全な場所に避難することなどを学びました(写真7)。